羽茂高等学校 後援会だより

発行
佐渡市羽茂本郷410
新潟県立羽茂高等学校
後援会

断雲高く羽茂高校

後援会長　中原雅司

表題は東京の本間慎先生揮毫の言葉です。科学者の先生は、日本学術会議会員・フェリス女子大学名誉教授学長・日本環境学会会長等々に就任し、健在で現在も活躍されております。

高校の存続に際し、全国の資料を準備され、県の一学級高校の実態を調べに同窓会で出かけたものです。

今年度、全学年が一学級ですが、全国大会最優秀賞の実績を持つ郷土芸能部は和歌山大会その他で活躍し、指導者の文部科学省優秀表彰を受け、元気に活動しています。硬式野球部は部員十一名乍ら、県大会の強豪相手に活躍し、新聞紙上その他で健闘が称えられる評価を得た年でした。また、テニス部女子の組が地区優勝して県大会で活躍し、嬉しい思いで本間慎大先輩に報告した所、先生より当時を含む感激の便りが届きました。羽茂高テニス部は佐渡で断然強い時代が続いた中で、先生の本間・榎谷組の県大会ベスト8が長らく最高位でした。

自分もテニスバカでしたが、平成三年県総体で安藤・佐藤組が優勝し、佐渡へ初めて大優勝旗を持ってきて静岡富士宮インターハイで頑張り、国体選手でした。彼等の時はインドア団体も優勝し個人共々北信越大会へ二度出場したものです。テニスの強い時代はそこそこ続き、北信越大会へは南、藤井組。木下、藤井組。団体戦で活躍の佐々木、金子組等頑張ったものです。その後、千葉臼子インターハイ出場、OB指導も健在で、本間先生の華麗なフォームは忘れられません。勉学に励む生徒を支え、南部唯一の高校へのご支援をお願いします。

羽茂高校だからできる！

校長　小林皇司

羽茂高等学校に勤務して、三年目を迎えています。

温暖で自然豊かな南佐渡の地で、伸び伸びと育った生徒たちに囲まれ、充実した毎日を過ごしております。

四月には新入生一九人を迎え、全校で六七人となりました。

新型コロナウィルス感染症対策が続く中、少しでも「学び」を続け、高校生活をより充実させられるよう、日々の学習、夏季学園祭や秋季学園祭、球技大会を例年とは形を変え、感染症対策を講じながら行いました。また、修学旅行は、行き先を関西方面から県内に変更し、二泊三日で行いました。

この厳しい状況の中、生徒たちは挫けることなく、学業に加え、工夫を凝らした学校行事、部活動に熱心に取り組み、着実に成長しております。

今春、卒業した生徒二六人の進路状況は、大学等進学六人を含め進学十六人（六二％）、就職十人（三八％）となりました。進学では、県内や関東圏の大学に合格するなど、将来は佐渡で活躍してくれると確信しております。就職については、希望者全員が就業しました。

生徒指導では、ご家庭の愛情と地域の高い教育力のお陰により、基本的生活習慣や規範意識を身につけており、充実した毎日を過ごしています。

続いて部活動についてです。

郷土芸能部が、「第四五回全国高等学校総合文化祭和歌山総文祭」に、新潟から和歌山市まで借り上げバスで移動するなどコロナ対策を講じて参加。前年度、web開催で全国の舞台に立つことができなかった先輩達の思いを胸に、練習の成果を発揮することができました。

今年もイベント中止が続きましたが、赤泊中学校で中学生との交流の機会をいただきました。久しぶりの発表で生徒達は緊張気味でしたが、立方、地方ともにとても良く、お客様にも喜んでいただきました。来年に向け、練習に励んでいます。

ソフトテニス部は地区大会で優勝し、バドミントン部、陸上競技部、剣道部も頑張っています。

特に野球部は毎日、夜遅くまで練習に励み、大会に参加。

夏の県大会では新発田高校に勝利。その後、強豪私立高校に惜敗しましたが、全国版の野球雑誌に掲載されるなど、これまでの努力が実を結びました。

今後ともご声援よろしくお願いいたします。

〈ICT活用と地域探究〉

令和3年度より佐渡島内の県立学校、阿賀黎明高校、新潟翠江高校7校で文科省「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業」に取り組んでいます。

主な取組は「遠隔授業の実施」と「地域との連携・協働」です。

遠隔授業では専門的な教科の他校の先生が、本校生徒に授業を行いました。他校に先駆け、令和元年に同窓会の支援によるWi-fi環境の整備、タブレット端末も他校より潤沢な事から、遠隔授業はスムーズに行われ、新たな可能性を感じました。

また、地域と連携・協働した取組も、「地域探究コース」が本格的に始まり、地域の課題解決に向けた研究に取り組み始めたところです。佐渡教育コンソーシアムで採用の地域おこし協力隊によるコーディネート等、今後、さらに地域連携の取組が進むものと考えます。

「羽茂高校だからできる」を改めて感じ、生徒、教職員が共に「答えのない課題」に挑戦しています。

これからも地域に選ばれる、魅力ある学校を目指し、生徒の様々な活動の発信に取り組んでいきたいと考えております。

今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。

羽茂高校後援会への感謝のことば

ＰＴＡ会長
風間　哲

新型コロナの影響で、少なからず制限が掛かる中で、後援会の皆様、校長先生をはじめとする先生方、保護者の皆様、ＰＴＡ役員の皆様のご支援のお陰で、何とか会長の職務を務めることができましたことに感謝申し上げます。

羽茂高校には、少人数校ならではのメリット、及びデメリットがありますが、メリットを活かした学校運営を全面に押し出していくことで、少しでも羽茂高校が良くなることを期待しています。

小規模な学校では団体競技の部活動で躍進するのは難しい状況ですが、小中学校から中長期計画を立てて強化することで、少人数の野球部でも、新聞、雑誌、テレビなどに取り上げられる活躍ができたことは喜ばしいことです。野球部には、ＯＢ会もなく、練習環境にも恵まれない中で、羽茂高校後援会、地域の方々、保護者の方々等大勢の方々に支えていただいていることに感謝し、皆様を笑顔にするために、大声を出し、ひたむきにプレイし、最後の一球まで諦めない姿で、野球関係者をはじめとする多くの人に愛されるチームとなることができました。

中学生の保護者の方からよく聞かれるのが「学習環境と進学率」であり、この部分をいかに改善し、伸ばしていくかが「生徒数の増加」に繋がるのではと期待しています。高校入学時には、大学進学を希望しながら、途中で勉強が疎かになるなどして大学・短大進学を諦め、別の進路を希望する生徒も多くいます。進学率を上げるためには、前述のような生徒をいかにして指導し、減らしていくことが重要かも知れません。

しかし、羽茂高校では、少人数でも大学・短大進学に向けて、しっかりと勉強できる体制ができていて、勉強を頑張ることで、高い評価を得て、推薦等にも有利に働いている現状であり、このことを外部に示す必要があると思います。

最後に、羽茂高校後援会様からの様々なご支援に感謝するとともに、益々のご発展を祈念いたします。

夏季学園祭（６月７日）

新入生桜の下で（４月７日）

入学式（４月７日）

秋季学園祭（９月 23 日）

夏季球技大会（７月 21 日）

SDGs 授業（６月 23 日）

２年生修学旅行②（10 月 14 日）

２年生修学旅行①（10 月 12 日）

３年生校外学習（10 月 13 日）

◀地域探究コース（ソーシャルデザイン）の授業
（11 月 10 日）

総合的な探究の時間▶
（10 月 29 日）

COREハイスクール・ネットワーク構想

令和3年度予算額（案）　2.1億円（新規）

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークの構築：COllaborative REgional High-school Network

背景・課題

○　**中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校**においては、地域唯一の高等学校として、大学進学から就職までの**多様な進路希望に応じた教育・支援を行うことが必要**であるが、教職員数が限定的であり、生徒のニーズに応じた**多様な科目開設や習熟度別指導が困難。**

→　**複数の高等学校の教育課程の共通化**や**ICT機器の最大限の活用**により、中山間地域や離島等の高等学校においても**生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援**を可能とする高等学校教育を実現し、**持続的な地方創生の核としての機能強化**を図る。

事業内容：中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校の教育環境改善のためのネットワークの構築

①同時双方向型の遠隔授業などICTも活用した連携・協働
⇒自校では受けることのできない授業の受講を可能化
⇒免許外教科担任制度の利用解消
◆文部科学省が実施教科や形態に応じた複数の研究テーマを設定し実施

②地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築
⇒学校外の教育資源を活用した教育の高度化・多様化
⇒地域を深く理解しコミュニティを支える人材の育成

※中・大規模校（教育センター）から複数の高等学校に対する「集中配信方式」の実施も推奨

【事業の検証のための調査研究】
全国展開に向けて、各ネットワークにおける成果・課題を抽出・分析する実証研究を実施

生徒の多様なニーズに応じた質の高い教育実現する高等学校ネットワークのモデルを構築

対象校種	国公私立の高等学校・中等教育学校	委託先	学校設置者
箇所数 単価（期間）	13箇所 1,400万円程度/箇所　（原則３年）	委託対象経費	遠隔授業の開発・実施に必要な経費 （人件費、設備備品費、委員旅費、謝金等）

資料2

文部科学省委託事業：地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）

新潟の未来をＳａＧａＳｕプロジェクト

目的

Sado(佐渡)と**Aga**(阿賀)と**Su**ikou(新潟翠江)のネットワーク７校の取組で、新潟の高校教育の未来を拓く

○　遠隔授業をとおして、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設を行い、離島・中山間地域の教育環境の充実を図る。

○　佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤として、地域と一体となって有為な地域人材を育成する。

現状

●本県の人口減少と少子化の急速な進行
・若者を中心として社会減少数が全国平均以上
・都市部と離島・中山間地域との間の人口偏在（医師の地域偏在を表す指標で全国最下位）
・佐渡市・阿賀町の中学者数は20年前に比べ約半減

●通学範囲の広さと通学手段の不便さ
・離島である佐渡市は、東京23区の約1.4倍の面積に県立高等学校等が５校点在
・福島県境にある阿賀町は、県内有数の豪雪地域で、町に唯一ある高等学校以外への通学には30km以上の距離

●県立高等学校等の小規模化の進行
・本県の全日制及び定時制課程県立高等学校・中等教育学校89校のうち47%が１～３学級（令和３年度募集）

1．遠隔事業に関する取組の概要

○　**新潟市内に立地する新潟翠江高等学校に遠隔授業配信センターを設置し、授業及び補習等を配信**
●理科、地理歴史・公民、芸術等の専門教員による授業
●国語、数学、英語の習熟度別に対応した授業
●大学進学や検定対策など、生徒のニーズに応じた各種補習

○　**新潟の魅力や最先端技術を踏まえた授業配信**
●本県の地形的・地質的特徴を学ぶ「地学基礎」を教育課程で共通化
●ＶＲや専門人材の活用を踏まえた「福祉」科目の授業

2．地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

○　**佐渡学コンソーシアムと阿賀学コンソーシアムの構築**
●共通理念は、生徒を「主語」に、大人も「ワクワク」
●地域資源の活用や、SDGsを踏まえた「探究的な学び」の充実

○　**コンソーシアム内外の学校間連携の推進**
●佐渡島内５校による、佐渡の魅力の情報発信
●異なった環境に立地する「地域探究コース」同士の交流、共同研究
例：佐渡・阿賀の魅力を知る観光周遊ルートや体験型メニュー開発
：離島・中山間地域が自給できるクリーンエネルギーの調査研究

3．ネットワークを構成する学校

○新潟県立佐渡高等学校(全日制、普通科)
○新潟県立佐渡高等学校相川分校(定時制、普通科)
○新潟県立羽茂高等学校(全日制、普通科)
○新潟県立佐渡総合高等学校(全日制、総合学科)
○新潟県立佐渡中等教育学校(普通科)
○新潟県立阿賀黎明高等学校(全日制、普通科)
○新潟県立新潟翠江高等学校
(定時制・通信制、普通科)

地域に選ばれ続ける学校であるために

教頭　早川　昌

「羽茂高校で学びたい。」そう思われる学校であることが、地域に選ばれ続ける学校なのだと考えています。例えば、中学生同士の会話で、

「あなたはどこの高校に行きたいの？」と聞かれて、

「え、私は羽茂高校に行きたいな。」と、答えると、

「へ～そうなんだ」で終わってしまいそうです。

でも、

「私は、羽茂高校で学びたい。」という答えを聞いたら、

「なになに？学びたいって、どういうこと？」と、逆に聞きたくなりませんか？

羽茂高校では、地域探究コースができて、二年目を迎えました。そして、実際に地域探究コースの学びが始まって、一年が過ぎようとしています。いわゆる普通の高校の普通科は、基本的に五教科を中心に、様々な科目を学んでいきます。しかし、中学生にとっては、また同じ五教科を勉強する、しかも、もっとむずかしくなるのだ、という感覚が強いようです。「学ぶ」のではなく、「勉強」（勉強とは、もともと、無理矢理机に向かわせる、という意味のようです。）する、という感覚です。「大学に行くために勉強する。」とか、「就職するために勉強する。」とか、何のために高校に行くのかというと、結局、「勉強する。」ためという感覚です。

しかし、羽茂高校では、一年生の「総合的な探究の時間（佐渡学）」で、自分が通学している地域、自分が住んでいる地域について学びます。二年生になって、「佐渡学」は続きますが、地域探究コースでは、一年生での学びを活かし、さらに、自らが興味を持った内容について深く学んでいきます。例えば、一年生で佐渡の豊かな海洋資源について学んだある生徒は、二年生になって、その豊かな資源が持続可能になるように「自然に帰る釣り糸」について調べました。結果、そのような釣り糸は製品化されたものの、採算が合わないとなくなってしまったことがわかりました。さて、このようか。それは、本人しかわかりませんが、もしかしたら、「だったら、自分が開発してみせる。」と考えて、三年生になったら、さらに学びを深めるでしょう。釣り糸の材料を考えるために、生物や化学を学び、そのためには、数学の知識も必要になると気づくでしょう。海外の研究も参考にするために、英語も理解できるようにならなければなりません。そして、気づいてみれば、もっともっと研究したいと考え、大学進学を目指すことになるでしょう。

さて、そんな羽茂高校での生活を送った生徒が、卒業した中学校に行って、「私は、羽茂高校の三年間で、こんなことを学びました。」と、話したら、きっと中学生の皆さんは「羽茂高校で学びたい。」と思ってくれるのではないでしょうか。

令和３年度　卒業生の進学状況

卒業年度				令和３年度			
卒業生数				26			
進学	大学	国公立	男	0	0	5	16
			女	0			
		私立	男	1	5		
			女	4			
	短期大学		男	0	1		
			女	1			
	専修・各種学校		男	8	10		
			女	2			
就職			男	7	10		10
			女	3			
その他			男	0	0		0
			女	0			
大学等への進学率				23.1%（6人）			

進学先・就職先

●進学（大学・短大６名　約23.1%）

敬和学園大学、新潟医療福祉大学、金沢学院大学
群馬医療福祉大学、相模女子大学
新潟青陵大学短期大学部

●進学（専門学校等 10名　約38.5%）

新潟県厚生連佐渡看護専門学校
新潟県農業大学校、国際子ども・福祉カレッジ
シェフパティシエ専門学校、新潟工科専門学校
新潟国際自動車大学校、新潟こども保育カレッジ
新潟コンピュータ専門学校、新潟情報専門学校
新潟ビジネス専門学校

●就職（10名　約38.5%）

陸上自衛隊一般曹候補生
日本郵便㈱、介護老人保健施設ケアホーム白井
佐渡汽船運輸㈱新潟支店、佐渡ふれあい福祉会
㈱佐渡電設、㈱ピー・シー・エヌ、はもちの里
㈱新生測量設計

羽茂高等学校後援会会計報告

（令和３年11月30日現在高）

(1)　収入の部		1,945,212円	
【内訳】	繰越金	1,945,196	
	利　息	16	
(2)　支出の部		193,674円	
【内訳】	会議費、旅費	0	
	事務費	88,195	（後援会だより等）
	雑　費	14,850	（地名存続冊子）
	予備費	90,629	（野球部・テニス部大会、香典、顔代等）
(3)　次期繰越金		1,751,538円	

冬季球技大会
（12月24日）

佐渡高校との遠隔授業
（11月19日）

地域探究コース（ベーシックコミュニケーション）の授業（11月15日）

題字　中川　淳
編集　中原　雅司